

来年度の学内プロジェクトの紹介も行います。

12月17日 (火)

ナシダイ諸学融合研究

シンポジウム

会場

大学会館

山梨大学甲府キャンパス内

13:00 開場

13:00-14:00 フリーセッション

14:00 開会挨拶 山梨大学学長 中村 和彦

14:05-15:00 ポスター発表コアタイム

15:00-16:00 フリーセッション&研究相談会

16:00 閉会挨拶 山梨大学理事 (学術研究担当) 茅 暁陽

研究サポートの相談承ります。

どんな助成金があるの・・・？来年度の学内プロジェクトは・・・？
こういう共同研究をしたいんだけど・・・
海外の研究機関にコンタクトを取りたいんだけど・・・

研究をもっと進める
ために必要なこと、
なんでも相談してください。

事前申込 (12/13まで)

<https://forms.office.com/r/WT12nWZj4G>

山梨大学以外からの参加者は事前申込が必須です。

☒お問い合わせ：研究力強化推進センター ura-tr@yamanashi.ac.jp



シンポジウムの趣旨

山梨大学は、「諸学融合」を通じて学術研究・科学技術の発展及び、本学の知見を社会変革やSDGs貢献に繋げるイノベーションの創出を目指し、研究プロジェクトを展開しています。本シンポジウムでは、令和6年度の本学のプロジェクト採択者が研究紹介を行うとともに、様々な分野の研究者が一堂に集結する機会とし、本学の諸学融合による研究活動をより一層活発化させることを目指します。

発表者・タイトル一覧



来年度の学内プロジェクトの説明は、スクリーンに常時投影を行う予定です。個別相談も承りますので、会場で気軽にお声がけください。

時間	A. 学術・社会変革研究プロジェクト	B. 大学発ベンチャー創成プロジェクト C. 若手人材育成プラットフォームによる若手研究者支援 D. ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型） 共同研究/地域貢献型研究支援/若手研究者研究支援
14:05 - 14:30	<p>A-1. 井上久美 先生 (工学) 病気の原因を「取り出す・見る」技術の開発</p> <p>A-2. 片岡良太 先生 (生命環境学) 化学農薬散布を大幅に削減したモモ栽培を可能にする生態系機能の解明～微生物-植物-動物をつなぐ三者間ネットワーク～</p> <p>A-3. 齋藤正英 先生 (医学) 放射線治療と人工知能の融合による新規高精度放射線治療技術の開発</p> <p>A-4. 中尾篤人 先生 (医学) 花粉症と睡眠 食事のタイミングやマイクロ環境因子との関係を先端的手法を用いて解明する</p> <p>A-5. 吉村健太郎 先生 (医学) 質量分析と機械学習を基盤とした超迅速ウイルス感染スクリーニングシステムの構築</p> <p>A-6. 若山清香 先生 (生命環境学) 哺乳類のためのサスティナブルな遺伝資源保存法の開発</p>	<p>B-1. 古藤田 眞和 先生 (医学) 医療行為の安全性・確実性・有効性を向上させる機器の開発</p> <p>B-2. 武田 哲明 先生 (工学) 浅層地中熱利用型ヒートポンプの実装事業</p> <p>C-1. 鈴木 堅太郎 先生 (生命環境学) アンドロゲン依存性疼痛抑制因子同定から切り拓く慢性疼痛性差形成機構の解明</p> <p>C-2. 繁富 英治 先生 (医学) アストロサイトの新規分子・経路を介した行動変容：新規うつ病治療法開発を目指した基礎的研究</p> <p>C-3. 島 弘幸 先生 (生命環境学) ラストパスパフォーマンスのベクトル解析によるサッカーゲームの戦術分析</p> <p>D-1. 石山 詩織 先生 (生命環境学) 穀物の機能性に関する研究</p> <p>D-2. 加賀 佳美 先生・代理 菊池 桜 先生 (医学) 発達障害児養育者の健康リテラシー（発達障害リテラシー）が、児の問題行動およびメンタルヘルスに及ぼす影響について</p> <p>D-3. 石丸 かよ子 先生 (医学) 喘息患者気道マスト細胞が示す体内時計リズムと病態との関係</p>
14:30 - 15:00	<p>A-7. 浮田 芳昭 先生 (工学) マイクロチップラボテクニシャン</p> <p>A-8. 喜多村 和郎 先生 (医学) ニューロン-グリア連関による運動学習機構の解明</p> <p>A-9. 三宅 邦夫 先生 (医学) 先制医療の実現に向けた腸内細菌叢解析によるDOHaD分子メカニズムの解明</p> <p>A-10. 八重樫 咲子 先生 (工学) 生物・環境情報から見た生態系と人間社会の環境適応の歴史とその利用</p> <p>A-11. 吉澤 邦夫 先生 (医学) 難治性口腔外科疾患 口腔癌 顎骨骨髓炎 に対する機械学習による治療支援ツールの開発：病理バーチャルスライドおよび顎骨レントゲン画像を用いて</p>	<p>B-3. 篠原 良章 先生 (医学) 健康長寿を実現するための脳刺激実験を行う目的で、高齢ブタを用いた脳機能評価プラットフォームを創生する</p> <p>B-4. 田中 敦 先生 (生命環境学) グローバルデジタルノマド需要にも対応可能な新たなワーケーション型観光ビジネスモデルの構築と事業化</p> <p>B-5. 高垣 堅太郎 先生 (医学) 健康長寿を実現するための脳刺激実験を行う目的で、高齢ブタを用いた脳機能評価プラットフォームを創生する</p> <p>D-4. 武末 裕子 先生 (教育学) 山梨県の特徴を活かしたアクセシビリティ教材活用研究～大学・教育現場・公共施設でのインクルーシブ絵本・地域題材を活用した国際交流～</p> <p>D-5. 向井 真那 先生 (生命環境学) コロナ二次林の広域分布理由を地下部の栄養獲得戦略から考える</p> <p>D-6. 斉藤 史恵 先生 (生命環境学) 甲州ワインに適するワイン樽用材の探索</p> <p>D-7. Niva Sthapit 先生 (工学) Environmental DNA Analysis for Assessing Micro- and Macro-organisms and Identifying Indicator Species in River Environments</p>